

ZERO TIMES

2020.7 Vol. 4

中止となっていた外来 Zero の会が 5 月 28 日に再開されましたが、感染予防のため入院と外来は別にプログラムを行っています。

私が Zero の会を担当するようになって初めての経験です。

実は Zero の会のように入院と外来とが一緒にプログラムを行っているところは少ないらしく、別々に行うことがスタンダードのようです。

では、当院はいつから入院と外来とが一緒に行くようになったのでしょうか。

Zero の会の前身は「ひまわりグループ」という名称で、始まりは 1993 年(平成 5 年)だそうです。当時は入院対象のグループだったみたいです。いつから外来が一緒に参加するようになったかは定かではありませんが、2001 年(平成

13 年)には少数ですが外来の方も一緒に参加していたようです。現在のように外来の方が多く参加するようになったのは名称が Zero の会となった 2008 年(平成 20 年)頃で、ARP からデイホスピタルに通所する方が増えた時期と重なります。「ひまわりグループ」の頃を知っている方は少なくなりましたが、今なお参加くださる方がいることは私たちスタッフの誇りであります。

コロナ禍による ARP への影響

さて、今回のコロナ禍で入院のみの Zero の会を 2 か月近く行っていましたが、担当スタッフとしては何とも心細い期間でした。外来のみなさまがいることの安心感、リアルな体験談の意義深さ、そのリアルな体験に基づく多くのアドバイスの重さ、改めて回復者のパワーに気づかされる機会となりました。言い換えれば、座学でしか知識のない私たちの話は本当に薄っぺらいなと思知らされました。

先日、「断酒して変化したこと」というテーマミーティングを行った時、自分

自身の退院後の断酒している姿、回復している姿を想像することが難しいとお話されていました。それもそのはずで、このコロナ禍で Zero の会は入院者のみ、自助グループにも参加できない状況でしたので、回復者とまったく会う機会がなく、退院後の生活や回復するイメージをすることが難しい環境になっていたのです。

本来であれば当たり前のように回復者と交流し、退院後の生活をイメージしながら準備をしているはずなのに、新型コロナウイルスはこのようなところにまで影を落としていきました。

一刻も早く新型コロナウイルスの収束を願うとともに、またアルコールで悩む人々と手を取り合って一緒に回復するための環境が整うことを願います。

(文責：OT 若松伸宏)

